

公益財団法人 メイト公德体財団便り

メイト公德体財団理事長挨拶



理事長: 赤岩達重



平素から当財団の運営に対して一方ならぬご尽力を頂きまして厚く御礼申し上げます。

スポーツの分野でハングリースポーツと呼ばれるものがあり、ボクシングなどがそれに当たるようで、逆境で培われた強い精神力を要求されるスポーツと言われています。

特にボクシングは相手のパンチを喰らうことで「負け」のイメージが頭をよぎる為、「負けない」ために訓練するとも言われています。青少年のスポーツにおいてもすべての青少年が恵まれた環境で行っているかというところではありません。発展途上国では用具も場所も指導者も不十分で周囲の理解も得られない中で行われているのが大半ではないでしょうか。その点日本にあっては地域格差はあっても世界という観点から見るとかなり恵まれていると言わざるを得ません。こうした環境の中では今後の社会生活のなかで訪れる逆境に立ち向かう、強い精神力をスポーツを通じて養っていく事が求められているのではないのでしょうか。それこそ「負けない」ための精神力に他なりません。

私どもメイト公德体財団では、青少年が挨拶がきちんとできる礼儀や人を思いやる心である徳、社会規範の順守などの実社会で生きていける人格の涵養を重視しています。

そしてスポーツの練習に耐えられる強靱な体をつくることで「負けない」精神力は備わると考えています。

少し理屈っぽくなりましたが、青少年すべてがトップアスリートを目指すことを奨励しているのではなく、スポーツ活動を通じて日本社会で通用する人格を磨いて欲しいと願っています。

私どもの活動は本当に微力ではありますが、これからも青少年スポーツ活動を支えてまいりますので、皆様のご助力を切にお願いいたします。



今年(2017年度)の事業

1. スポーツ少年団への助成事業

助成対象
15団体

助成金額
1団体あたり
12万円以内



2017年度助成金授与式にて(7月11日)

2. 第10回記念講演会

日程 : 2018年2月19日(日)
講師 : 栄 和人先生
(全日本レスリング女子ヘッドコーチ)
演題 : 「世界の頂点に挑む」(予定)
場所 : 学び館「サエスタ」
(和気郡和気町父井原430-1)

前年(2016年度)の主な活動報告

- 2016年6月9日 理事会開催
- 2016年6月23日 理事会・評議員会開催
- 2017年2月19日 第9回記念講演会 開催
講師 : 杉山 愛 先生



杉山愛先生

※講演会の様子は裏面をご覧ください。

2017年2月19日 理事会 開催

今年（2017年度）助成金採択団体のご紹介

今年度の助成団体(全15団体)を以下にご紹介致します。

＜ご紹介内容＞

団体名 [住所]		
児童数	年間試合数 (練習試合数・大会での試合数)	
練習曜日	1回の練習時間	練習の参加率

野球

藤山スポーツ少年団 野球部

22名	10 試合 (4試合・6試合)
火・木・土	2 時間 85 %

和気ベースボールクラブ

32名	57 試合 (42試合・15試合)
土・日	3 時間 90 %

柘原ジュニアスターズ

22名	27 試合 (15試合・12試合)
月・木・土・日	2-5 時間 90 %

ソフトボール

鏡野南スポーツ少年団

20名	92 試合 (14試合・78試合)
土・日	4 時間 80 %

岡山Eガールズ

14名	-
土・日	3 時間 90 %

岡山リトルエンゼルス

16名	55 試合 (25試合・30試合)
火・木・土	3 時間 90 %

バレーボール

シャイニー瀬戸内VBC

8名	45 試合 (30試合・15試合)
火・木・土・日	3 時間 99 %

フォルツァ桜が丘バレーボールクラブ

21名	50 試合 (40試合・10試合)
火・木・土	2 時間 80 %

津山東ジュニアバレーボール教室

14名	45試合 (20試合・25試合)
木・土・日	2 時間 100 %

ミニバスケットボール

城東台フレンズ

12名	122 試合 (110試合・12試合)
火・木・土・日	3 時間 100 %

岡山西南 女子ミニバスケットボール

23名	125 試合 (64試合・61試合)
火・金・土・日	3 時間 95 %

バスケットボール

みつオールスターズ

13名	143 試合 (67試合・76試合)
火・木・日	2 時間 90 %

JS Eggスポーツ少年団

27名	20 試合 (10試合・10試合)
火・木・土・日	3 時間 90 %

剣道

真備東剣道スポーツ少年団

33名	33 試合 (5試合・28試合)
火・木・土・日	2 時間 97 %

ソフトボール・サッカー・ミニバスケットボール

弥生スポーツ少年団

13名	35 試合 (12試合・23試合)
土・日	4 時間 98 %

前年（2016年度）助成団体の活動報告

《2016年度の助成団体（全15団体）》

- 高野スポーツ少年団 女子ソフトボールクラブ
- 美咲町スポーツ少年団
- 佐伯ソフトボールスポーツ少年団
- 志戸部スポーツ少年団
- 長船ミニバスケットボールスポーツ少年団
- Cat'sファイヤー
- 日生バレーボールスポーツ少年団
- 城南バレーボールスポーツ少年団
- 清泉スポーツ少年団 バレーボール部
- 久代剣道スポーツ少年団
- 美作ジュニアベースボールクラブスポーツ少年団
- 桜が丘レッドファイヤーズ
- 長船フレンズ軟式野球スポーツ少年団
- 津山市林田スポーツ少年団
- ソレイユ吉永サッカースポーツ少年団

《2016年度活動評価・報告》

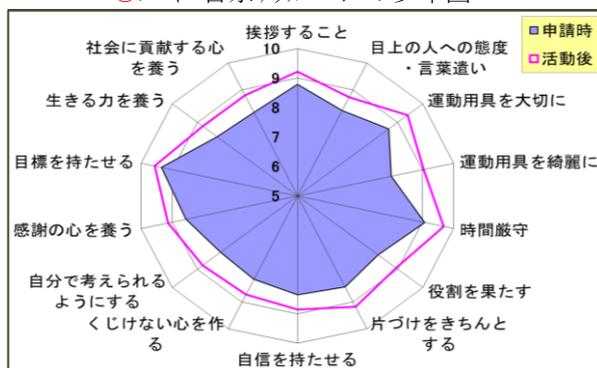
スポーツ以外で重視していることについての点数付けを10点満点で行っていただき、それを平均したものが右の表です。申請時(2016年4月)、活動後(2017年3月末)でそれぞれ評価していただいたところ、全項目での点数が上昇しております。

《練習・試合の状況(15団体平均)》

- 練習日数：2.8日/週
- 参加率：92%
- 2016年度試合数：45試合

《練習・試合以外の活動》

- 廃品回収
- 交流合宿
- 清掃活動
- ボランティア活動
- マラソン大会出場
- キャンプ 等々



活動を振り返って (感想文のご紹介)

この度は助成金をいただきありがとうございました。僕は今年4年生です。小学1年生から剣道を習い始めました。稽古は毎日のように頑張っているけれど、試合になると緊張してしまい、思うように足が動かずいい結果を出すのがなかなかできません。試合で負けたときとても悔しいです。団体戦のチームメンバーにも迷惑をかけることも多いのですが、たくさんの人が僕たちを支えてくれたり見守ってくれているのもっと自信を持って頑張っていこうと思います。いただいた助成金でお揃いの冬用のジャンパーを買うことになったので、これからもチーム仲良く楽しく真剣に稽古をしたいと思います。

私はバレーが出来て嬉しいです。バレーが出来るのはたくさんの方が協力してくれているからです。家族は応援してくれたり、体育館まで送り迎えをしてくれます。あとバレーを教えてくれる指導者に感謝しています。バレーをしていたら、嬉しい事がたくさんあります。例えばサーブが決まった時、強打が取れた時、あと優勝した時がとっても嬉しいです。トロフィーやメダルをもらって練習してよかったなと思います。なのでこれからも指導者、家族、協力してくれる色々な人に感謝してバレーを続けたいです。目標は来年の県大会で優勝して全国大会に行く事です。そのために今までよりも練習を頑張って自分で考えてプレーしていきたいです。

この度、ぼくたちに助成金をいただきまして、ありがとうございました。助成金で新しいユニフォームを作って頂きました。新しいユニフォームを手にしたとき、とても嬉しい気持ちになりました。僕たちのチームは高学年が少なく、少人数で活動しています。試合にも出場しますが良い成績を残す事が出来ていません。でも日々の練習を頑張っています。僕はキャプテンとしてチームを引っ張っていく役目があります。先輩が残してくださったチームカラーや、努力すれば上手になれるという教えを忘れる事無く、今後もサッカーに打ち込みたいと思います。サッカーを通してチームのみんなや自分も成長できるように頑張っていきたいです。

第9回記念講演会開催報告

「世界一のリーダーシップ力」

元プロテニスプレイヤー・スポーツコメンテーター

講師：杉山 愛 先生

開催日：2017年2月19日（日）

開催場所：学び館サエスタ



講演の始めにサインボールを3個客席に向けて打って下さいました

I. プロテニス選手のワールドツアー

毎年7月から始まり、4大会を中心として世界の色々なところで大会がある。年間で地球を3周くらいの距離を移動し、265日位の海外生活を送ることになる。世界をぐるぐる回っている時には、ONとOFFの切り替えが大事でビーチでくつろいだりする時間が必要になってくる。

ツアーは公用語が英語で日常生活でも英語さえ話すことができれば、どの国の選手とも話すことが出来る。そうして気軽に声を掛けられる友達を増やすことが出来る。また、試合前、試合後のインタビューは義務となっており、インタビューを受けなければ20～30万円の罰金を科される。記者は英語でかなり厳しい質問をしてくる。このときも英語力は必要となる。海外での活躍を思っている子供達はみんな英語を学んでいる。

II. 国民性の違いとプラス探し

日本人は海外の人をととても温かく迎え、国際大会でも日本の選手だけを応援することではなく、外国選手が決めると声援する。この感覚で海外の試合に出ると大きく違っている。1番印象深い試合で米国のサンディエゴであったステフィ・グラフとの試合で、グラフには大拍手で私が決めてもパラパラの拍手しかない完全なアウェイ状態の試合になり、最終セット6-4で私が勝つと会場が大声援となった。力を出し切って人を感動させる姿を与える事が出来るか、アウェイをどれだけホームにするかが重要なポイントであることを学んだ。そこに行ったらそこのやり方でどれだけ出来るか、会社でも学校でもそこにどれだけ適応できるを心がけることが必要である。苦手な国に行くとやはり良い結果が出ない。嫌なところの良いところを見つける、プラスを見つけるようにすると良いところが見つかる。嫌な人でもプラスを探していけば良いところが見つかる。プラス探しを心掛けていけば、その環境に適応していける。

III. プロテニスプレーヤーになるまで

私は4歳でテニスを始めた。運動が好きで体操やクラシックバレエもやっていた。車で10分位のところにテニススクールが出来て本格的にやるようになった。中学の時全国大会で優勝して初めて海外のアジア大会に出た。その時から海外の人と友達になって一緒にプレーしたいという思いが強くなった。16歳になるとジュニアのトップ大会に出だして、ジュニアの世界ランキング1位になったが、私自身は単なる通過点として上を目指した。プロには17歳でなりその時の記者会見で「世界のトップテンを目指して頑張ります。」と話した。



IV. 目標の立て方

28歳の時になってトップテンになれたがプロになって11年半、テニスを始めてから24年掛かったが、とても大きな達成感があった。しかし長い間の目標だったのでそこから上に行こうとするモチベーションはなかった。トップテンではなくナンバー5以内という当初の目標であったなら結果も違っていたと思う。目標を高く持つとそれに向かってブレークダウンして絵を描くことが出来るはずなので、目標は高く持つことはとても大事なことである。



2016年度の助成団体の方々と一緒に記念撮影♪

V. ピンチはチャンス

プロになって8年目に最大の壁にぶつかった。ボールが怖くなり打ち方も分からない状態になった。自分では不調に気づかず絶不調に陥ってしまった。テニスもグチャグチャ、頭の中もグチャグチャ、ランキングも落ちていくなかで、テニスを辞めたいと母に相談すると「ここで辞めたら何をやってもうまくいかないじゃない、すべてやり切ったの」と言われて自分の心に聞いたら「やり切れていない、ちょっとうまくいかないからといって逃げたらプロではない」と思い直し、ゼロから色々なことに取り組んだ、コーチを替えて効率の良い打ち方を学び、色々なトレーニングをした。それまでは若さで感覚でやっていたが、精神的な積み上げが必要であることを痛感した。色々な課題の中で自分を探し、自分を磨き、なぜ自分はテニスのプロをやっているのか、「人に喜びと元気を与える、仕事を通して人に元気を与えられる」そう考えて取り組んだ。スランプはとても辛く、涙しか出ない時だったが、このスランプがなかったらトップテン入りはなかった。うまく行かない時は方法を変えてチャレンジすることを勧める。嫌だなど思いながら取り組んでいると出来ない。まるごと全部を楽しむ気持ちを持ってやる気スイッチを入れることが出来る。